

じんけん くらしの扉

淡路市人教：No.56

子どもと人権

幼保連携型認定こども園恵泉保育園
園長 堂山いずみ

人権について考えることは、子どもと関わる職業に就いている者として常に身近な課題であるといえます。子どもと接する時、「子どもにとってどうなのか」という自問自答が必要ではないかと思えます。子どもたちを守り、そして育てていく立場から人権を考えてみました。

恵泉保育園には現在、園児が108名います。平成28年度から認定こども園に移行して今年で4年目になります。就学前の6か月から6歳という年齢の子どもたちが、日々さまざまな活動をして過ごしています。

これからは、12月のクリスマス会に向けての準備が始まります。保育者は、子どもたちがどう楽しめるか、やる気を持てるか等を考えながら準備を進めていきます。積極的ばやってみよう!」「やってみよう!」という子もいれば、一方で「なんだかあんまりしたくないかも」という気持ちの子もいるでしょう。さて、そんな時に先ほどの、「子どもにとってどうなのか」という問いかけがでてきます。一人ひとりに寄り添って対応していき、その子が安心して過ごせることが大事になってきます。

その際、心に持っておきたいこととして、子どもは「小さくても、一人の人として尊敬される存在」であり、「自分の思い・意思を持った存在」であると捉え、「尊敬の対象」として子どもを見ることです。保育者(大人)が子どもの人権を尊重し、支え守ることができ得る存在になることが必要だと思います。また同時に、保育者の私たち自身も生き生きとし、自分自身を肯定できるようになることも不可欠でしょう。子どもと大人が、自分も他者も認め合いつつ人権尊重ができる関係を築いていきたいと思っています。

淡路市人権学習交流会

「からだ・こえ・こころ

～表現してみよう～



毎年恒例の淡路市人権学習交流会が8月28日(木)に関西総合リハビリテーション専門学校にて実施されました。今年度は、市内の小中学校から205名の参加がありました。

午前は、低・中・高学年、中学生で分かれてそれぞれのテーマに応じた活動を行い、午後からは、全体会を行いました。

全体会では、最初に表現者チェスナツのお二人による朗読劇を鑑賞しました。初めて観た子どもが多かったこともあり、会場全体が朗読劇の独特な雰囲気の世界へと変わり、歓声や笑い声も聞こえるような素晴らしい朗読劇でした。

後半は、自己表現力を学ぶための研修講座をしました。縦割り班を編成し、午前中に「表現活動リーダー養成講座」を表現者チェスナツのお二人から学んだ中学生にリーダーをお願いしました。

講座は、年齢関係なく中学生を中心として、自己表現力を育てる様々なゲームを行いました。ゲームによっては、個人ごとや班ごとに競い合い、また、協力することで新しい発見や新しい友達とより一層楽しく一緒に学ぶことができ、笑いの絶えない一日となりました。

